



第43回 奈良透析学術総会 が

2019年2月3日（日）奈良ロイヤルホテル にて

開催されます。

当院からは

<臨床工学科> 益田百合子 臨床工学技士

<臨床工学科> 市谷和也 臨床工学技士

<栄養管理部> 藤井秋香 管理栄養士

<薬 剤 部> 久保佐千子 薬剤師

<患者支援センター> 澤田由佳 社会福祉士

（プログラム掲載順）

以上5名が学術発表いたしますので、ご紹介します。

奈良県医師会透析部会
第43回 奈良透析学術総会
プログラム・予稿集

日時 2019年2月3日(日) 12時開始

会場 奈良ロイヤルホテル

大会長 原田 幸児 (社会医療法人 松本快生会 西奈良中央病院)

常任理事会	10:30～	鳳凰の間(い)
理事会	11:15～	鳳凰の間(い)
総会	12:00～	第1会場・鳳凰の間(ろ)(は)
一般演題	12:20～	第1会場・鳳凰の間(ろ)(は) 第2会場・ロイヤルホール
特別講演	15:00～	第1会場・鳳凰の間(ろ)(は)
懇親会	16:15～	朱雀の間

一般演題 技士 I

12:20～12:48 第1会場【鳳凰の間(ろ)(は)】

座長 辻井 厚二 (医) 桜翔会 田畑医院

1. 重度のCLIに対しEVTとLDL-Aを繰り返すことで下肢大切断を回避できた透析患者の1例
益田 百合子 (T) 他 (医) 康仁会 西の京病院 診療部 臨床工学科

2. シャント狭窄率が透析中の脱血量に与える影響
～超音波式血流計HD02を使用して～
市谷 和也 (T) 他 (医) 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科

3. レーザー血流計を用いたバスキュラーアクセス管理
常本 晋平 (T) 他 大和高田市立病院 臨床技術科

4. ポケットLDFを用いた皮膚組織灌流圧測定の検討
日用 亮司 (T) 他 (医) 康成会 星和台クリニック

一般演題 技士 II

12:50～13:18 第1会場【鳳凰の間(ろ)(は)】

座長 岩下 裕一 市立奈良病院

5. 災害用伝言ダイヤル「171」の体験と避難訓練を実施して
鯨 忠利 (T) 他 (医) 友愛会 しらかしクリニック

6. 当院腎センターにおけるインシデントレポートの現状と分析
新井 大樹 (T) 他 (社福) 大阪暁明館 大阪暁明館病院 血液浄化療法室

7. 長時間透析施行時におけるダイアライザの選択
西川 竜矢 (T) 他 (社医) 松本快生会 西奈良中央病院 臨床工学科

8. 当院における生菌発生時の透析液水質管理方法
梶原 聡司 (T) 他 奈良県立医科大学附属病院 医療技術センター

※(D)(T)(N)(RTC)は発表者の職種(医師)(技士)(看護師)(レシピエント移植コーディネーター)を表しています。

第 43 回奈良透析学術総会・一般演題抄録

重度の CLI に対し EVT と LDL-A を繰り返すことで下肢大切断を回避できた透析患者の 1 例

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾

○益田百合子(T)¹⁾ 中島大志¹⁾ 溝口陽裕¹⁾ 市谷和也¹⁾ 松田竜馬¹⁾

明石清忠¹⁾ 二神徳明¹⁾ 野口幸¹⁾ 山岡みゆき²⁾ 渡邊美智子²⁾

吉岡伸夫²⁾ 高比康臣²⁾

【症例】2017 年 6 月に疼痛を伴う下肢の冷感が出現。SPP 検査で Left Dorsal/Plantar(D/P) 14/26mmHg に低下していた。下肢動脈造影を行い、左大腿膝窩動脈の狭窄と 3 枝膝下動脈の完全閉塞を造影所見にて認めた。血流改善目的で LDL-A を 10 回 1 クール施行し下肢の冷感・疼痛は消失した。しかし約 1 か月後、冷感と圧痛を伴う第 2 趾の感染創が出現したため、11 月に大腿膝窩動脈と前脛骨動脈に対して EVT を行った。EVT 後 CRP が 17.1mg/dl まで上昇したため抗生物質の投与を行い CRP は 7.0mg/dl まで低下したが、感染創の改善には至らず第 2 趾基部切断を行った。術後、創部の肉芽形成が遅延し再度 LDL-A を施行したが、SPP 検査では Left D/P 19/16mmHg と改善が認められないため 2018 年 4 月に下肢動脈造影を施行。造影所見にて前脛骨動脈の再狭窄がみられたので同部位に EVT を行い、さらに LDL-A を追加した。第 2 趾の小切断は避けられなかったが創部は改善、SPP 検査では Left D/P 30/45mmHg まで上昇し自力歩行が可能となった。現在も経過は良好である。

【結語】CLI の治療には下肢動脈血流の改善が重要である。本症例は EVT による血管拡張と LDL-A による微小循環改善効果で良好な肉芽形成が促進され予後良好な経過を辿ったと考えられる。

(Key Word) EVT LDL-A フェレーシス CLI

シャント狭窄率が透析中の脱血量に与える影響

～超音波式血流計 HD02 を使用して～

医療法人 康仁会 西の京病院 診療支援部 臨床工学科¹⁾ 透析センター²⁾
市谷和也(T)¹⁾、中島大志¹⁾、溝口陽裕¹⁾、益田百合子¹⁾、松田竜馬¹⁾、明石清忠¹⁾、
二神徳明¹⁾、野口幸¹⁾、山岡みゆき²⁾、渡邊美智子²⁾、吉岡伸夫²⁾、高比康臣²⁾

【目的】超音波式血流計(HD02)は透析血液回路にセンサを接続するだけで簡易に脱血量を定量的に測定することが出来る。今回、HD02 を使用し、シャント狭窄率が脱血量に与える影響を検討した。

【対象と方法】同意を得た当院維持透析患者 34 名の内、シャントエコーで 50%以上の狭窄率がある患者 17 名(狭窄群)と狭窄がない患者 17 名(非狭窄群)を対象とした。方法は、透析開始から 1 時間毎(計 5 回)に透析監視装置の設定血流量を 150ml/min、200ml/min、250ml/min の 3 段階に切り替え、HD02 による脱血量を測定して、その差を 2 群間で比較検討した。さらに、時間毎の除水率と HD02 による脱血量の関係を検討した。除水率は目標除水量に対する時間あたりの除水量とした。

【結果】狭窄群では非狭窄群と比して有意に脱血量の低下を認めた($P<0.05$)。さらに、狭窄 0 群は設定血流量 200ml/min 以上で除水率が増加するにつれて脱血量が低下した($r=-0.3$ $P<0.05$)。

【結語】今回、HD02 を使用し脱血量を測定した。狭窄群は非狭窄群と比較して脱血量が低下した。さらに設定血流量 200ml/min 以上では除水率が増加するにつれて脱血量が低下したことから、シャント狭窄が 50%以上ある患者は狭窄率と循環血液量に影響されることが示唆された。

(Key Word) : HD02 脱血量 シャント狭窄

一般演題 他職種

14:20~14:48 第1会場【鳳凰の間(ろ)(は)】

座長 奥村 紀子 奥村クリニック

17. 西奈良中央病院維持血液透析患者における健康食品・サプリメントの使用状況

富本 由希 (管理栄養士) 他 (社医)松本快生会 西奈良中央病院 栄養給食課

18. 低栄養高齢透析患者への FFQg を用いた栄養指導の有効性の検討

藤井 秋香 (管理栄養士) 他 (医)康仁会 西の京病院 管理栄養部

19. 薬剤師による服薬指導が血清リン値に及ぼす影響

久保 佐千子 (薬剤師) 他 (医)康仁会 西の京病院 薬剤部

20. 非閉塞性腸管膜虚血症 (以下 NOMI) と感染性腸炎が原因と考えられた門脈気腫の一救命例

一谷 宙生 (N) 他 (医)桜翔会 田畑医院

一般演題 看護師・他職種

12:20~13:02 第2会場【ロイヤルホール】

座長 河野 恵 奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室

21. 多職種連携により在宅退院できた透析患者の1例

澤田 由佳 (社会福祉士) 他 (医)康仁会 西の京病院 患者支援センター

22. 慢性腎臓病患者に対する医療チームでの活動内容を報告する

高谷 和志 (N) 宇陀市立病院

23. A 病院透析室における腎代替療法選択説明の現状報告

山本 愛子 (N) 他 奈良県立医科大学附属病院 透析部

24. チームで支える療法選択：腎移植

澤口 恵美 (RTC) 他 奈良県立医科大学附属病院 集中治療部

25. 透析患者の退院調整の実情

巽 規全 (社会福祉士) 他 奈良県立医科大学附属病院 地域連携室

26. 維持透析施設紹介の現状と課題

河野 恵 (N) 他 奈良県立医科大学附属病院 地域連携室

低栄養高齢透析患者への FFQg を用いた 栄養指導の有効性の検討

○藤井秋香¹⁾ 岩崎早耶¹⁾ 岡村早香¹⁾ 野口幸²⁾ 吉岡伸夫³⁾

医療法人康仁会 西の京病院 1) 栄養管理部 2) 臨床工学科 3) 内科

【はじめに】高齢透析患者は栄養摂取不足や長年の透析による栄養素の喪失等、様々な要因のため低栄養に陥りやすい。そこで、管理栄養士による食生活に応じた栄養指導が栄養状態改善に寄与出来るかを検討した。

【対象と方法】当院の透析センターに通院する65～74歳の患者のうちGNRI91未満の低栄養患者で栄養指導を希望した11名（男性4名、女性7名）を対象とした。6～9月の4ヶ月間、計6回透析中に訪問し、FFQg（食物摂取頻度調査法）を用いた摂取栄養量の算出と患者への算出結果の伝達、個々の食生活に応じた不足を補うための栄養指導を行い、介入前後での摂取エネルギー・タンパク質量の目標達成率、GNRIについて検討した。

【結果】介入前後で摂取エネルギー・タンパク質量は共に有意に増加した。特に摂取エネルギー量の目標達成率の平均値は介入1か月間で80%から96%まで増加した。GNRIについては介入前後で有意な差がなかった。

【結語】摂取栄養量と目標栄養量を患者に明確に示すことにより、摂取エネルギー・タンパク質量を増加出来たと考えるが、GNRI改善には至らなかった。今後はさらに長期的な介入を行い、GNRIのような血液検査データだけでなくADLやサルコペニア・フレイルに対する有効性の検討も考えてみたい。

薬剤師による服薬指導が血清リン値に及ぼす影響

(医) 康仁会 西の京病院 薬剤部¹、同病院 透析センター²、同病院 内科³

○久保佐千子 (薬剤師)¹

中谷沙弓¹、今西江里¹、高野日出子¹、山添雅之¹、

野口幸²、山岡みゆき²、渡邊美智子²、吉岡伸夫²、高比康臣³

【目的】透析患者は血清リン (P) 値のコントロールが重要であり、それに伴う薬物治療の役割は大きい。今回、薬剤師による服薬指導を行い、指導が P 値に及ぼす影響について検討すべく、その前後における P 値の比較を行った。

【対象と方法】当院外来透析患者 327 名中、2018 年 4 月時点において P 値が 6.0mg/dL 以上かつリン吸着薬を服用中の患者 41 名のうち、透析スタッフより服薬指導依頼があった 26 名 (男性 13 名、女性 13 名、透析歴 9.8 ± 7.2 年) を対象とした。2018 年 6 月 1 日から 7 月末までの 2 ヶ月間に、服薬の意義や方法についての理解を深められるよう薬剤部が独自で作成した説明書を用いて、透析中の患者のベッドサイドで 30 分間、隔週で 3 回服薬指導を行い、指導前と指導終了 2 週間後の P 値を測定した。

【結果】P 値は、 7.1 ± 0.8 mg/dL から 5.8 ± 1.2 mg/dL に有意に低下した ($p < 0.001$)。

【結語】薬剤師が直接服薬指導を患者に実践することで、服薬アドヒアランスが向上し、P 値の改善につながったものと思われた。今後も患者や他職種のスタッフと協力し、治療効果の向上を目指したい。

Key Word ; 服薬指導、血清リン値、リン吸着薬

多職種連携により在宅復帰できた透析患者の1例

(医) 康仁会 西の京病院 患者支援センター

○澤田 由佳 (社会福祉士) 林 忍 青木 昭美

【はじめに】

要介護状態となっても住み慣れた地域で生活が継続できるよう、医療・介護・福祉の多職種連携が重要である。透析患者は、週3回の透析が必要であるが、提案する支援策の受入が困難な入院患者に対し、社会福祉士として多職種連携の中心的役割を担い、在宅復帰できた1例を報告する。

【症例】

糖尿病性腎症により透析歴3年の53歳男性。身寄りがなく生活保護を受けているが、受給費の殆どをゲームに費やし生活は困窮していた。常態的にドライウェイト迄の除水困難がある中でADL低下及び網膜症による視力低下を主訴に平成30年6月29日入院となった。退院までの約3か月間、患者の自己決定をサポートし、患者の居・食・住の生活課題に対して繰り返し関わった。また、社会福祉士として医師を初めとする病院スタッフ、地域や行政等の関係機関と連携しながら在宅復帰支援を行った。

【結語】

専門職がそれぞれの専門性を活かした連携を図ることで在宅復帰をすることができた。今後も患者の自己決定を尊重しながら多職種で連携した支援の継続が必要である。

Key words ; 多職種連携 在宅復帰支援 自己決定